

新宮山彦ぐるーぷ第2009回  
前鬼・小仲坊で薪材作りボランティア

◇実施日：2019年2月10日（日） 晴

◇参加者：沖崎吉信、生熊敏男、児嶋道夫、山川治雄、志岐敬、梶野照雄。 6名。

前鬼・小仲坊北側に、数年前に切り倒された大木が放置されていた。建物側に倒れる恐れがあり、業者によって切り倒されたのであるが、根元直径が90cmを越え、長さは30m以上あり、お堂の裏に見苦しい姿を晒していた。五鬼助さんお一人では、枝の切除もままならないため過去3回にわたって切除処理をし、先端部分は切除が終わっていた。

昨年12月、中又尾根付近での作業が早く済んだので、前鬼で切除作業をしようと向かったが、五鬼助さんは不在のようで、ゲートを通過できなかった。



小仲坊に到着

「第二十九摩 前鬼山」標識設置

今回、3連休の中日でお天気がいい事もあり、事前に五鬼助さんに確認して作業を行った。

当初、山川さんと二人だけで計画していたが、新宮から3名と奈良の志岐さんが参加していただき、精鋭揃いでスムーズな作業となった。

近鉄吉野口駅で志岐さんを拾って前鬼口に向かった。風が強くて気温は低いが、道路に雪は無い。新伯母峰トンネルではワサビ谷に向かったと思われる駐車車両が10台ほど止まっていたが、先週残っていた雪も全く見られず、路面はアスファルトが見えていた。

午前9時ちょうどに前鬼口到着、沖崎車がすでに着いていて、すぐに前鬼へ向かう。林道は落石が増えていて、避けながら慎重に走行した。



作業の様子

約30分で小仲坊に到着、五鬼助さんの出迎えを受けた。

村吉さん作製の標識「第二十九摩 前鬼山」を五鬼助さんと相談して行者堂前に設置後、各々が用意したチェーンソー4台、燃料やオイル、楔、バール、ウインチ、油圧ジャッキなどを運んで作業を開始した。大まかな作業順序を伝えるだけで各々が作業を始める。何をやるのかは、それぞれがよく理解しているので特別指示は必要がない。これまでの作業経験があるので、チェーンソーの歯が挟まることも殆どなく順調に切除が進み、短い休憩をはさんで、ちょうど十二時に昼食。宿泊棟の前で弁当を広げるが、風も収まり日当たりもよいので寒さは感じなかった。食後にはコジマカフェも開店してゆっくり休息した。

食後も続けて切除作業、根元に近くなるにつれて直径が大きくなり切断に時間がかかるようになってきた。東側は谷で、深さが4mほどの崖なので直接降りて行けず、谷の上に伸びている先端部分を上から切り落とすだけにとどめた。この谷にも枝などが多数落ちていたので、上部から降りて掃除しなくてはならない。



積み上げた丸太

ウインチを試す

五鬼助夫妻とご一緒に

持ってきたウインチを試してみた。児嶋さん持参のスリングで

立ち木に引っ掛けて2m位の丸太を引っ張ったが、ロープの方向と巻き取りリールの角度が合わずスムーズにはできなかった。先端にロープの方向を吸収するガイドローラーを取り付ける必要がありそうだ。ワイヤーロープを通して引っ張るチルホールがあれば問題ないのだが。

根元に近い直径60cmを超える部分と、重なった部分を残し、突き出している枝を切除して午後2時半に作業終了、工具を全て車まで運ぶ。五鬼助さんから飲み物と菓子が入れられ談笑と情報交換。お堂前で全員の写真を撮ってから解散した。

### 行動タイム

前鬼口 09:00→09:33 小仲坊 09:50 作業→12:00 昼食 12:30 作業 14:30→小仲坊 15:00

(記：梶野 写真：志岐・梶野)